
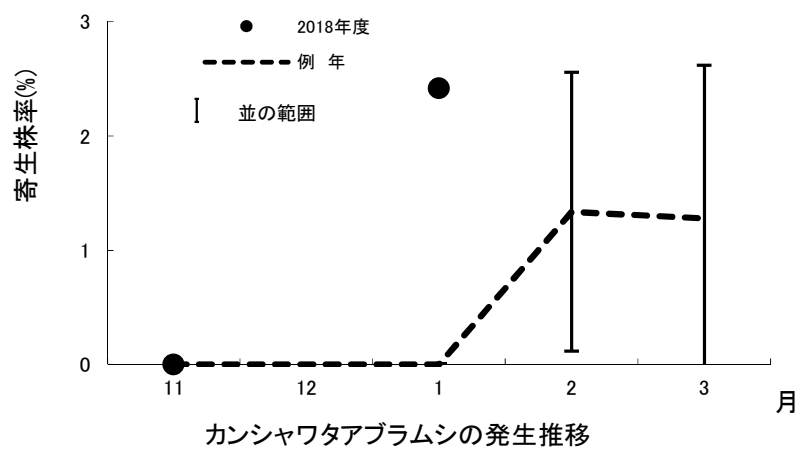


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① カンシャワタアブラムシ		
1月の発生量（現況）	多		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 伊計島と宮城島の一部ほ場で多発生。
- ・ 宮城島では、分散能力の高い有翅虫も発生していた。
- ・ 天敵のマエウスジロマダラメイガの発生は未確認。




有翅虫と幼虫→



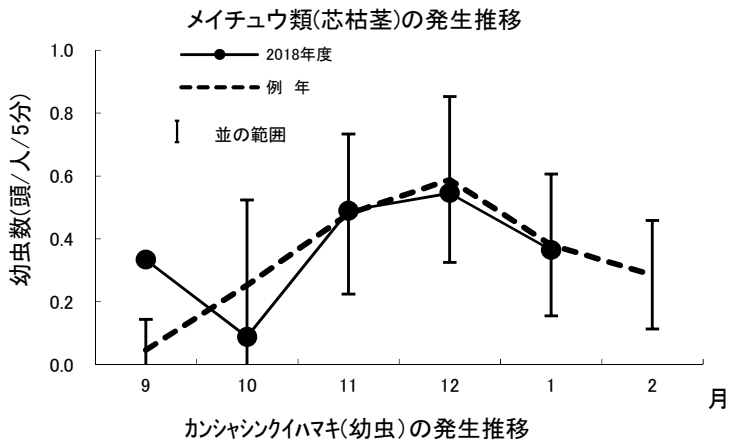
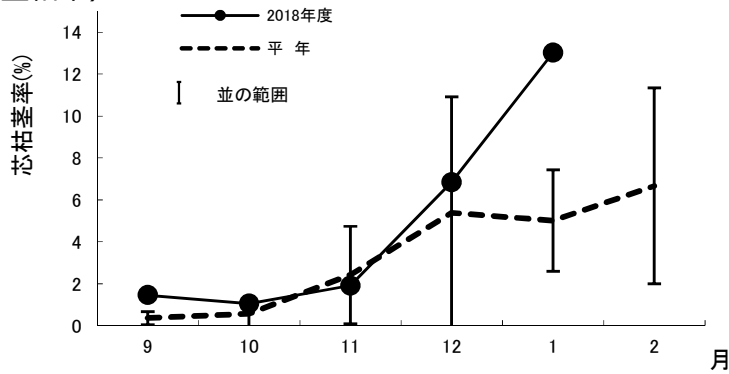
←マエウスジロマダラメイガの幼虫

防除のポイント

- ・ 大発生すると吸汁害及びすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である。
- ・ 特に新植夏植ほ場については、2～3月の薬剤防除を徹底する。
- ・ 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・ 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意する。
- ・ 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- ・ 多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
1月の発生量(現況)	多		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



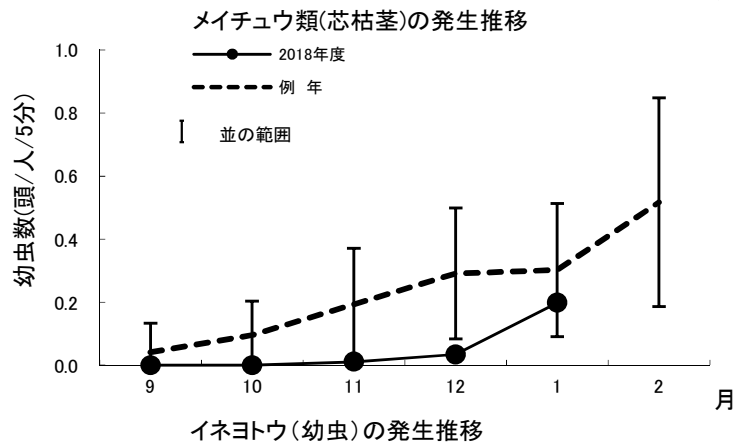
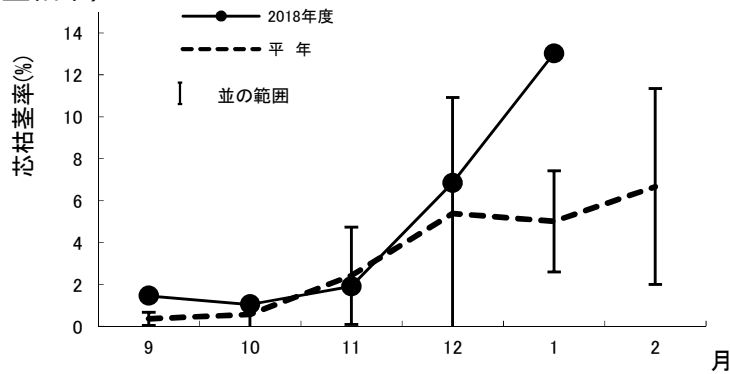
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の65%がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類が多発生。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
1月の発生量(現況)	多		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の35%がイネヨトウであった。
- ・ 本島南部のフェロモントラップによる成虫誘殺虫数は0.14 (頭/日)で平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類が多発生。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。